

12月6日(金)に「島本町男女協同参画講座」の一環で人権についての講演会を行いました。今回は、「デートDV(人との距離感)」について、元高校の保健室の先生の道原 舞^{みちはら まい}さんを講師に招いての講演会でした。思春期のみなさんは、体や心の変化が大きい時期であり、気持ちの揺らぎ、からだへの興味がわく時期でもあります。そのため、様々な悩みも多くなることがあります。



デートDVの暴力としては、①「身体的暴力」(殴る・蹴るなど)、②「言葉の暴力」(脅す・バカにするなど)、③「束縛の暴力」(自由を奪うなど)、④「性的暴力」(無理に体を触るなど)などが挙げられます。また、生徒や教職員と一緒に行ったロールプレイを通じて、「人の境界線」についても学びました。人との付き合い方についての理解を深め、これからいろいろな人と安心して過ごせるためにどうすればよいかを考える機会となりました。

この講座は、3年間継続されますので、来年は、「ワークライフバランス・家事や育児の役割意識」について講演をしていただく予定です。



みっちー's ポイント

- ①付き合う中でイヤなことをされることは愛情ではない。
- ②友達同士でもマナーが必要。好きだから自分はどうしたいではなく、好きだから相手の意見を聞く、同意を得ることが大切。
- ③嫌だと言ったことは事象に対して嫌なのであって、あなたが嫌ということではない。

裏面は、講演会後に書いた生徒の感想です。

- ・人によって境界線の範囲が違うということが分かり、とても印象に残った。
- ・言葉の暴力に気づいていないかもしれないけれど、相手は傷ついているかもしれないということを理解した。
- ・境界線は個人によって違うので、他の人と自分の境界線の違いを認めることが大切だと思った。
- ・今までOKだと思っていた事が実はダメなことだったということに気がつけた。デートDVをそんなに多くの人を受けているのかと驚いた。
- ・自分が良くても相手に確かめないといけないということが分かった。
- ・無視も暴力に入ることを初めて知った。また、人によって、気分によって、どんどん境界線が変わっていくことがおもしろく、気をつけようと思った。
- ・OKなことやNGなことは自分にも相手にもあり、意見を言う権利もみんなあるということ。
- ・「嫌と言われても自分のことを嫌いというわけではなく、自分のした行動が嫌いということ」や「同意なく人のものなどを触ることもバリアに触れていること」などが印象に残った。

講演会後のアンケートを見ると、悩みや困っている人もいることが分かりました。悩みや困りごとがある人は信頼できる大人の人や先生に相談してください。一緒に考えていきましょう。道原先生(みっちー)に直接相談したいことがある人も先生に相談してください。